

松本国際中学校 学校通信

8号（2022年（令和4年）12月23日）

【12/7-18 2学年語学研修】



2学年は1泊2日の語学研修を行いました。

初日は TOKYO GLOBAL GATEWAY でエージェントとの交流、そして空港での様々なシチュエーションの英会話、身近なものから効果音を作る学びを実施しました。

2日目は東京スカイツリーのソラマチで English Square を実施、外国人コーチと一緒に各グループでミッションクリアを目指しました。

ホテル京阪築地銀座グランデで宿泊をしました。コロナ禍でなかなか宿泊行事を体験できなかった生徒もいたと思いますが、良い経験ができました。

語学研修の結果は、帰ってきた生徒たちの充実した顔で感じ取ることができました。当然、上手く英語で喋れなかった、もっと勉強をしておけば良かったという悔しさはそれぞれの思いにあるでしょう。しかし、「日頃の勉強の力を、こういった実践の場でチャレンジした」ということだけで、素晴らしい成果だと思います。失敗など

ありません、この2日間は生徒たちのこれからの成功のための、一歩だったと思います。

今日のその思いを、これからの英語学習、そして様々な勉強、授業で役立ててほしいと思います。





【12/23 2学期終業式】

2学期の終業式では多くの表彰がありました。野球部は全国大会出場を決めた全日本少年春季軟式野球大会長野大会代表決定戦優勝の優勝旗と賞状の授与がありました。サッカー部のチラベルト杯・女子バスケットボール部の長野県新人では、ともに長野県第3位の表彰を受けました。女子バレーボール部は中信新人優勝の表彰を受け、これで2022中信地区新人戦では松本国際中学の4つの部活が優勝を独占したということになりました。

個人では各種検定で多くの生徒が資格取得を達成しました。今回は2学期内に結果が発表された英語検定・数学検定・漢字検定の合格者全員の名前が呼ばれ、代表生徒が登壇して賞状を受け取りました。他者と比べてではなく、昨日の自分よりも高めようというその意志が、これからも自らを向上させていきます。既に次の検定や試験に向けて日々勉強を積んでいる生徒もいます。みんなで切磋琢磨しながら、ぜひ自己を高めていってほしいと思います。

意見発表では1年2組の小林さん、2年1組の古川さん、2年2組の太田さんがそれぞれ「2学期を振り返って」をテーマとして発表をしてくれました。

小林さんは「学習計画を見直し、時間を効率よく使って学習できるようにしたい」、古川さんは「1年の時とは違い、自分を変えたいと意識した。学習は苦手だが3学期は自ら進んで取り組みたい。人として善い人になりたい」、太田さんは「ただ黒板を書くだけでなく、授業の受け方をより良いものにしたい。3学期はテスト勉強と授業の受け方を頑張りたい」と発表しました。



永原経明校長先生からは「皆さんにはより高いところを目指して頑張ってもらいたい。振り返りが大事である。今の自分はどうか、それならどうしなければならないか。振り返りは自分の出発点である」というお話をいただきました。また「先日、高校に卒業生の森昂大選手（J2・徳島ボルティス所属）が来てくれた。彼の話の中で“今まで様々な困難にぶつかったが、最後には自分が頼りで、自分で乗り越えなければならない…そう思って乗り越えてきた”という話があった。それはまさしく自分で自分をコントロールし、自身を律していくことだ。皆さんはこれから2週間程の休みに入るが、自分で自分をコントロールして、自己を律してほしい」というお話がありました。



【今後の予定】

12月24日（土）～1月9日（月）冬期休業

1月10日（火）3学期始業式

13日（金）第3回英語検定（希望者）

14日（土）第4回入学者選抜試験

24日（火）第3回学力推移調査

2月10日（金）第3回漢字検定（希望者）

「12月」というキーワードが見られる小説はいくつもあると思いますが、文庫にして10ページにも満たない話でありながらとても印象深い作品に、江國香織さんの「デューク」があります（新潮文庫「つめたいよるに」所収）。イメージしやすい物語の始まりから、12月に起きた不思議な体験を描いたこの作品。実は2001年に大学のセンター入試で出題されており、受験中に涙をこらえられなかった受験生が続出したとか。つい先日、動物好きの生徒に勧めたところ非常に気に入ってくれたようです。

たくさんの本を読むことで想像力を膨らませ、語彙力が増えます。これは言葉からイメージを連想する力がついていきますし、ただ言語を暗記する事よりも実践的であると言えます。その結果、これから大人になっていくに従って今以上に必要とされるコミュニケーション能力や文章作成能力を習得することに役立つと思います。冬休みは寒い毎日に家の中にこもることもあるかもしれませんが、そんな年末年始に一冊でも多く本を読んでほしいと思います。皆様、良いお年を。（山崎）